だるま絵付けで日本体感

韓国の高校生30人来県

農家ホームステイも

在韓国の日本大使館などが募集した交流事業で、10～16日の日程で日本に滞在する韓国の高校生30人が12日に群馬入りし、高崎でのだるまの絵付けや伊香保温泉での宿泊を体験した。13～14日にはみなかみ町の農家にホームステイもする。

願いを込め、真剣な表情でだるまに目などを描き入れる韓国の高校生たち＝高崎市藤塚町

今回の来日は、アジア太平洋、北米地域の41の国と地域との間で約3万5千人の中学、高校、大学生が相互訪問する政府の事業の一環。帰国後に体験を発信してもらい、訪日客の増加や日本への理解につなげる狙いも込めている。

30人はソウル、釜山、済州の日本大使館や領事館の募集に応募し、論文などで選ばれた。主催した日韓文化交流基金によると、アニメなどを通じて日本文化に関心が高く、大半が日本語を話せるメンバー。3分の1は日本企業への就職も希望しているという。

3年生のイ・スンハンさん(18)は「政治や経済など韓国と日本の違いをもっと勉強したい。日本の大学に進学し、日本企業に就職したい」。5度目の来日といい、道がきれいで礼儀正しく、成熟した文化にひかれるという。

生徒らは10日に来日後、都内で原宿やIT企業などを訪問。台湾の学生の教育旅行を受け入れてきた実績などから、次の訪問先に群馬が選ばれたという。

12日午後には高崎市の少林山達磨寺で住職からだるまの由来などを聞いた後、高崎だるまを製造・販売する「大門屋」の工房で絵付けを体験。「県ふるさと伝統工芸士」の中田純一さんの実演を見て、高さ12㌢のだるまに目やひげを描き入れた。訪問団団長の高校教師ソ・サンボムさん(54)は「民間外交の一つとして心の交流をしてもらいたい」と話した。（長屋護）

© 朝日新聞社　無断複製転載を禁じます。
すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。